

謹呈

大隈伯爵閣下 請安

敬啓者

去十月十日

魯報一封定て御覽之榮荷りよる候儀其

後に存す達頼^達交通は日と逐々^逐進厚^厚なる

以冬達頼公他來錫^錫は、對り日と得^得見^見教^教回^回に及

達頼が一方北京に冬朝するの勢、有利に西藏並

推同題確定等に因りて多分の便宜あるに從德

は、結果先人の北京に於て北京政府の對藏政策の

動見^動と窺^窺はし、次に今と海外に派し、西藏統系の

資に足らざるに致し、技術的存及北京廟堂の決議は西

藏と、新總督役還視と唱ふるに達頼の警後

亦一方震きに日本に政治的及管と視察せしめんと議中

止し、亦着に達頼の對藏主張と從來の如く掌握す

事の先決問題を確めん、巨大の舊自と大官に賄

激進運動と、加之達頼幕下の露露黨は

北京政府の新總督視に可決せしむるは、畢竟日本

の尙視^後的意見^のあり、達頼と、相成無實の僞位

据中より、過き、而して其表面の物言、若く日本

北京政府の新總督視に可決し、或は畢竟日本

の尙視^{梅の}意見^{即三ノ}を以て達款とし、相承無實の僞位

据中より過きず、而して其の表面の物言若くは日本

の心を以て見傲さく、阿嘉胡國克國の所為に付さず

と邪推し、北京の實際名に蓋白と欺し、阿嘉と彈

劾し、達款自らを奉朝とし、滿州皇室の藩屏

として天下無敵の棟梁たる者、如き威權と恢復

せん、博く、^十は一般の事情を知らざる、真似し

達款及露黨の者、飲ラウマン遺布等に從來して

専ら達款の矢朝は對を藏し、達款に關し、頗

便宜をよんと、勸令清の事、教回、及、い、の蓋し

亞細亞高原に蟄居し、世界の大陸、殊に東洋の

霸權と常權とを日本の威力と目前に見聞せざる

結果として、偏に露の巧妙なる東方政策に乘せられ

誰清親露の顛倒、以て變礼と惹起せし、^對は

候得る、何^が達款とし、北京或は台小字に涉

引し、尙極直接に日本の大勢力と見聞せし、^其國

は裡に疎露親清の狀態に復せし、^{ある}は清國の

最大利、^{ある}は言、^は迄もなく、是れ懸て對岸の我

海邊を、^一波、^釋か、^まし、^るの、^一方便、^係ん、^ぬ

以禮と疎露親清の狀態に復せしめたるは清國の

最大利也は言ふ迄もなく是れ懸て對岸の我

海邊を以て波穢かきしむるの一方便にん欲

愚察して強て彼の英朝と初論清く露靈

は力に奉に耳傾けしむるも達教の英朝は刻字

急活ありと思惟しむるの初談に役合しし人

此處に以て劃策を以てあり其日の効益

又北京政府の達教とて禁煙遠く青海の邊に

をしの不利ちこのみより總督新設置に要す

三百萬兩の目下支出に困窮す折物支れば

一面は達教と末路し一面は達教を寛待し

西藏統治策の實施を見よに是れ達教とて

北京に接近せしめ是の必要あり打算し統

に上端を以て達教とて台山に折論するに是れ

免る南来三月に達教は当地を以て支那

内地より山西者も台山に向決て一女台山

山錫の上り於て北京に先朝するや吾未定に折術

門より達教の荷物運搬用として駱駝八百頭

山錫の上は於て北東に先朝よりや右未定に於て

門より達教の荷物運搬用として駱駝八百頭

支給はす同地無量武備余元には亦以て達教

勢力の侮ふがらざるよのありと推しゆるるに存候

免角にも八箇の先朝に於ては確かに^きの秘論

の百一も実行せられしるに存候是に依て^臣幕

への清慮は如何か一日奉の助言に於て達教の北方

に於て心と一妻せの^福州皇宮を^等指し其に

すこと^得は^まも^うと^申候、^其に^付て^尤も^便利^はは

日本の大宰府に於て^親文と^譯し^字より^関係^す

此方より^関係と^對して^日唐^西國に^親札の^よの^念

起^りし^はは^清の^利益に^對して^併に^東亞の

平和の保障に^用ひ^らる^ん哉と^申候^に是^般の^件

成就するに^否は^法堂^例より^決する^所に^有り

す^に達^教の^同行^并し^は二^三ヶ^前に^亦々^北東に

の^事候^に却^てに^依り^は下^に取^り候^にも^亦々^潤候

た^らば^はは^は而^も時^の弊^と致^して^亦々^批て^出

一^等と^候に^は大^要に^おき^て他^人の^事候^に

ち^きに^候に^は也^の也^の

十一月

西

一、候以上は大事に小出之他人に小出

古書押在紙上にも如也

十一月廿二日

安玉

古本紙雅古

大隈伯閣下

台前

大日本國東京早稻田

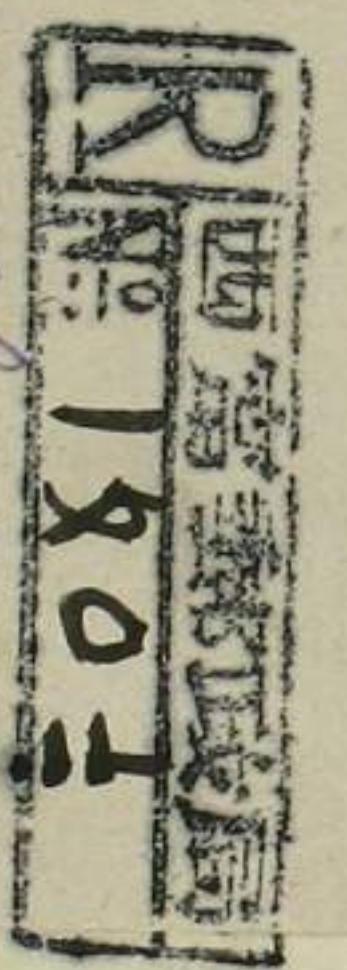
大隈伯大人 玉啓

Check New York

To Japan.

十月廿日

自清國甘肅省山嵐府 安太春奉



寄